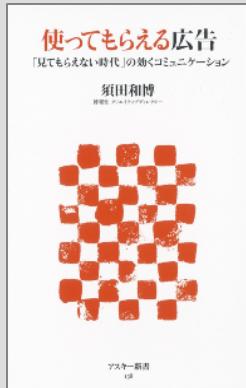


# BOOK

## 使ってもらえる広告

### 「見てもらえない」時代の効くコミュニケーション



著者：須田和博  
刊行：2010年1月  
出版社：アスキー・メディアワークス（アスキー新書）  
定価：本体743円+税

#### <目次>

- はじめに 見てもらえないんなら、使ってもらうしかないじゃん！  
第1章 広告なんて、もういらない！？  
第2章 コミュニケーションはいま、こんなにデジタル  
第3章 いまだきのユーザー（人びと）に接するには？  
第4章 「見てもらえる広告」から「使ってもらえる広告」へ  
第5章 ユーザーに愛される五つの極意  
第6章 未来はルーツの中にある  
おわりに やっぱりユーザーが一番エライ！

デジタル化の進展によって、メディアの構造は大きく変化しています。ブログやSNS（ソーシャルネットワークサービス）の発達など、いまや生活者は、関心のある情報を自ら集め、必要な情報を選別し、さらには発信する、というように、自分を取り巻く情報を自らの意思でデザインするようになります（「生活者主導社会」）。

裏を返せば、生活者にとって自分に必要がなさそうな情報は、スルーされてしまう時代。この時代に、「広告」はどのように生活者=ユーザーと向き合えばよいのだろう？

いっそのこと、広告が、ユーザーの生活にホントに役立つことをやってみればよいのではないか？生活の奥深くに入り込み、生活者とのキズナをつくる、サービスとしての広告。本書では、そんな「使ってもらえる広告」を提案します。

グラフィック、テレビCMなどマス広告制作のキャリアを長く積み、ウェブ広告制作のフィールドへと移ってきた著者が、自ら手がけた仕事の現場で体感している「広告のいま」を、分かりやすく解説します。

#### 【著者プロフィール】

須田和博（すだ・かずひろ）  
博報堂エンゲージメントビジネス局 クリエイティブディレクター  
1967年新潟県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒。  
アートディレクター、CMプランナーを経てインタラクティブ広告の領域へ。紙、テレビ、ウェブなど、あらゆるメディアを使いこなすクリエイティブディレクターとしてコンテンツやサービスを企画制作。ACC賞、TCC新人賞、モバイル広告大賞、東京インタラクティブ・アド・アワードグランプリ、カンヌ国際広告祭銅賞など受賞多数。アジア太平洋広告祭審査員（2009年）。